



# 王一だより

令和3年6月号  
北区立王子第一小学校  
校長 荒木 康子

教育目標 仲良く助け合う子 身体をきたえ元気な子 よく考え最後までやりぬく子 親切で礼儀正しい子

## 伸びようとする芽

校長 荒木 康子

6月に入ります。1学期も前半が終了して後半へ向けての折り返しとなります。気温も上がり梅雨の季節に入ると湿度も高く、学習には条件がよいとはいえませんが、比較的落ち着いて学習や生活に取り組める時期です。

各学年、各学級では、児童の発達段階や実態に応じて、様々な目標やルールを決めてその定着に向けて取り組んでいます。1年間の学年・学級の土台づくりを進めています。丈夫な建物を建てるためには、しっかりとした土台が必要です。

王子第一小学校では、生活や学習の規律の標準となる「ぴかいちキッズスタンダード」の作成、7年となりました。高学年児童は、入学してから定着を目指し、今では「あたりまえ」のこととして行動できるようになっています。児童の成長している姿からも日々の生活の積み重ねが、生活や学習の規律、規範意識の土台を築いていることが分かります。

丈夫な建物といえば、先日、建設中の新校舎に下見に行ってきました。図面での新校舎を実際に見たことで、「新校舎」への期待が大きく膨らみました。また、子供たちが喜ぶ歓声が聞こえてくるようでした。残り、2か月で竣工。楽しみにしててください。



さて、6月は、草木が大きく育つ時季でもあります。雨が降り、光が注ぎ、ぐんぐん育ちます。子供たちも学年・学級の土台づくりとともに「伸びようとする芽」を伸ばしていきます。

以前、ある学校の掲示板で見かけた『ことば』を紹介します。

『のび太にも 良いところが一つだけある。それは、彼は反省するんです。いつまでもいつまでも今より良い人間になろうと努力するんです。』

(ドラえもん作者 藤子・F・不二雄)

ドラえもんに登場する「のび太くん」は気が弱く、何をしても失敗をしてしまう「だめな」の代名詞のように言われがちです。子供たちは、みんな「賢くなりたい」「優しい人になりたい」と思っています。「のび太くん」も同じです。この『ことば』から、人の心の奥にある「伸びようとする芽」(可能性)を感じられました。

これからの学習や活動が全て思い通りに運ぶとは限りません。日常生活においても、私たちは、ときには間違ったり失敗したりします。そんなとき、できなかったことを指摘するのは簡単ですが、そればかり言い続けても効果はあまり期待できません。かえって、一人一人の心の奥にある「伸びようとする芽」を摘んでしまうことになるからです。

大事なことは、自分で失敗を素直に受け入れ、改めようと努力することです。自分のよいところを褒められると、自分への自信や次への意欲につながります。学校では、子供たちのがんばりを認め、褒めながら「伸びようとする芽」を大きく育てていくよう努めたいと考えています。ご家庭でも、子供たちのがんばりを見つけて、声をかけていただければ幸いです。